

2016 (平成28)年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

言語研修生募集要項

ILCAA Intensive Language Courses 2016

言語研修について

この研修はアジア・アフリカ地域での現地調査・研究や専門的業務に役立つ現地語の習得を目指す短期集中型語学研修です。日本の専門研究者と母語話者とが一緒に教授にあたる生きた言語教育である点が特徴です。

大学在学学生、大学卒業者または上記の目的に必要な学力及び動機をお持ちの方であれば、ご応募いただけます。

募集言語について

琉球語、ゾンカ語、ヒンディー語

各言語の研修期間、研修時間など、研修内容についての詳細は、それぞれのページをご覧ください。

募集定員について

各言語 約10名（当研究所で書類審査により選考します。）

募集期間について

第一次募集期間：2016年5月2日（月）～ 2016年5月25日（水）

受付時間 午前9時30分～午後5時（正午～午後1時を除く）

持込みの場合、土・日・祝日を除きます。

郵送の場合は、5月25日（水）必着です。

Eメールの場合は、5月25日（水）日本時間午後5時必着です。

定員に満たない場合は、二次募集を行います。定員に達すれば、二次募集はありません。

第二次募集期間：2016年6月1日（水）～ 2016年6月27日（月）

受付時間 午前9時30分～午後5時（正午～午後1時を除く）

持込みの場合、土・日・祝日を除きます。

郵送の場合は、6月27日（月）必着です。

Eメールの場合は、6月27日（月）日本時間午後5時必着です。

[主催／企画] 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 <http://www.aa.tufs.ac.jp/>

[協力] 大阪大学大学院言語文化研究科 <http://www.lang.osaka-u.ac.jp/>

応募方法について

所定の受講申込書に必要事項をご記入の上、在学証明書又は最終学校の卒業証明書(写)を添えて、お申し込み下さい。

※申し込み方法は、直接持ち込み、郵送、Eメールのいずれかとします。

※申込書に記入いただくEメールアドレスは、選考結果通知PDFをお送りしますので、ilcaa-ilc@tufs.ac.jp からPDFファイルが受信できるアドレスをご記載ください。

※郵送の場合は、封筒の表に「言語研修〇〇語申し込み」と朱書き願います。

受講申込書送付先および各種問い合わせ先について

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所2階206室

研究協力課共同研究拠点係

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

Email ilcaa-ilc@tufs.ac.jp

選考結果について

受講の可否は、一次募集応募分については、6月下旬までに本人あてにEメールにて通知します。二次募集を行った場合は、7月上旬に本人あてにEメールにて通知します。

受講手続きについて

受講を許可された方は、所定の期日までに、研修言語ごとに定められた額の受講料を一括納付して下さい。

受講料は各言語ごとに異なりますので、それぞれのページをご覧ください。

受講料振込先情報および振込期日は、選考結果通知に記載してあります。

口座振込に係る手数料はご負担ください。

修了要件と修了証書について

研修言語ごとに定められている授業時間数の3分の2以上出席し、かつ所定の成績を収めた受講者に修了証書を交付します。

文化講演について

研修期間中、文化講演として、担当講師以外の外部講師を招いた授業を取り入れています。文化講演は一般向けに公開することがあります。

受講までの流れについて

受講申込



郵送, Eメール, 直接お持込にてお申込みください.

確認メール送信



郵送またはEメールにてお申込みいただいた方には, 受付確認メールをお送りいたします.

選考結果通知をメール送信



選考を通過された方には, 受講料振込先および, 初日の集合時間等についても, あわせてご案内いたします.

受講料振込



通知書に記載された期日までに, 受講料をお振込みください.
振込手数料は自己負担となります.

受講料振込確認メール送信



期日までにお振込が確認できない方には, 事務局から確認メールをお送りします.

研修に関する連絡をメールにてお知らせ



各言語ごとにメーリングリストを作成し, 必要に応じて, 研修に関するご連絡を差し上げます.

研修開始

受講上の注意について

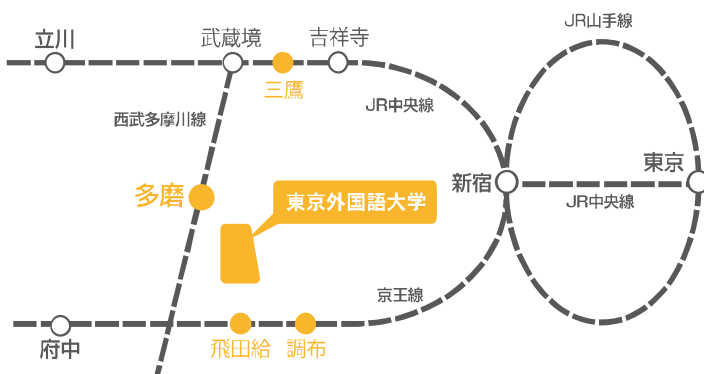
- 会場には駐車場はありません。受講時は公共交通機関をご利用ください。
- 本研修の受講生は正規の学生ではありませんので、学割定期券の購入はできません。
- 宿泊施設については、ご自身でご手配くださいますようお願いいたします。

研修会場について

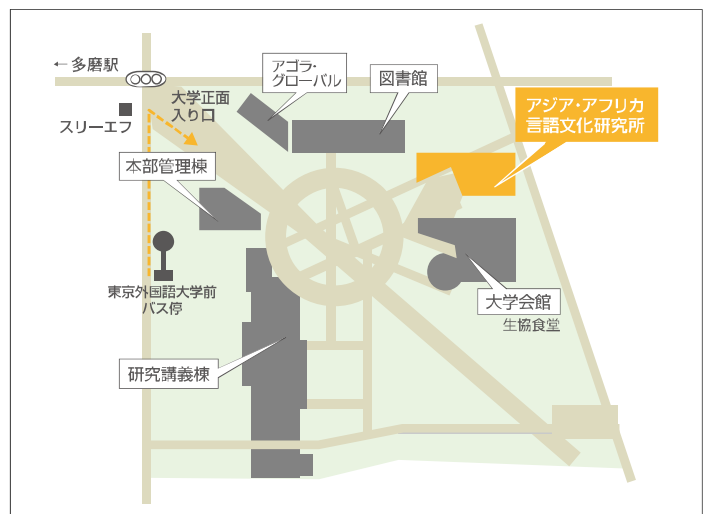
東京会場 [琉球語, ゾンカ語]

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

AA研へのアクセス



- JR中央線「武蔵境駅」から西武多摩川線に乗り「多磨駅」で下車(所要5分)。駅から徒歩5分。 ※西武多摩川線は12分間隔。
- JR中央線「三鷹駅」から小田急バス鷹52系統に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要30分)。停留所から徒歩2分。
※小田急バス時刻表:
<http://www.odakyubus.co.jp/cgi-bin/search/mapsearch.cgi>
- 京王線「飛田給駅」から京王バス飛02系統・調33系統(いずれも多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要7分)。停留所から徒歩2分。
- 京王線「調布駅」から京王バス調33系統(多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要20分)。停留所から徒歩2分。
※京王バス時刻表:<http://www.bus-navi.com/>



大阪会場 [ヒンディー語]

貸し会議室 大阪研修センター 十三 (阪急十三駅西口より徒歩3分)
〒532-0024大阪市淀川区十三本町1-12-15
ドルチェヴィータ ファースト 3F 会議室A
TEL 06-6302-4040, FAX 06-6302-4048

新大阪から地下鉄・阪急利用の場合

「新大阪」駅から大阪市営地下鉄御堂筋線(なかもずまたは天王寺方面行)にて「西中島南方」駅下車, 阪急千里線「南方」駅(梅田方面行き)に乗り換え「十三」駅下車.

新大阪からJR利用の場合

「新大阪」駅からJRにて「大阪」駅下車, 阪急線「梅田」駅に乗り換え「十三」駅下車 (すべての電車が十三駅に停車します) .



琉球語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

琉球語は、琉球列島(奄美諸島, 沖縄本島, 宮古島, 石垣島を経て, 西端の与那国島)において話されている諸方言の総称です。現在の琉球語の発音をきくと、標準語との違いに目を見張ることでしょうが、日本語と同系の言語であり、むしろ古い日本語の姿をよくとどめる、保守的な側面も多々あります。例えば、中学高校の古典文法で習った「係り結び」が現在も残っていることは有名です。

琉球語は島ごとの差異が非常に大きく、特に奄美諸島・沖縄本島の北琉球語と宮古・八重山の南琉球語の違いは、英語とドイツ語の違いに例えてもおかしくないほどです。本研修では、南北それぞれの代表的な方言として、奄美大島の湯湾集落で話されている湯湾方言と、宮古群島の1つである池間島および伊良部島、宮古本島の西原集落などで話されている池間方言を学んでいきたいと思えます。

琉球語は消滅の危機に瀕した危機言語であり、伝統的な琉球語の話者は今後数十年で激減すると予測されています。島ごとに(さらにはその集落ごとに)危機の度合いは異なりますが、概ねどの地域でも、40代以下で伝統的な方言を自由に話せる人の数は非常に限られており、その保存・継承がいずれの方言においても大きな課題です。これを受けて、2009年にUNESCOが日本国内の危機言語として琉球語(奄美語、宮古語を含む6つの地域語)を認定しています。

研修の対象者について

本研修は、日本国内の危機言語である琉球語を題材にしながら、今後ますます重要性を増していく危機言語・危機方言の記述・記録保存の方法論を学ぶと同時に、未知の言語の体系的記述を行ううえで直面するリアルな問題を受講生同士でシェアしていくことを目的としています。よって、本研修は、琉球語を実際に話すことができるようになるという語学的なトレーニングではありません。

上記の趣旨から、本研修の対象者は、琉球語はもちろん、日本語諸方言、国外の少数言語の記述に興味のある研究者や学生です。特に、これから日本国内外の危機言語・危機方言の研究をスタートさせようと思っている大学生・大学院生にとっては、この研修はまたとない機会になることでしょう。すでに個別の言語・方言の特定のテーマの研究を行っている研究者もまた、危機に瀕した方言の体系的な記述の方法を学ぶ貴重な機会になると思えます。

研修内容について

本研修の主眼は、琉球語の話者を招いての疑似的なフィールド調査を通して、危機言語・方言の文法を記述する(フィールドワークをする)方法を学ぶことです。琉球語は内部の変異が非常に大きく、本研修では南北2つの方言を一週間ずつ扱います。北側で話されている琉球語(奄美大島の湯湾方言)と、南側で話されている琉球語(宮古島の西原方言)の研修は、それぞれに専門家とネイティブ・スピーカーが付きます。それぞれの方言に関して、基礎語彙の収集にはじまり、面接調査、談話収集などを行い、最終的にはグループ単位で基礎的な文法概説をまとめあげ、プレゼンするという流れを想定しています。この研修によって、危機言語・方言のフィールド調査の一連の流れが理解でき、基礎的な調査テクニックがみにつき、今後各自の研究にすぐに活かせるようになることでしょう。さらに、特徴が大きく異なる南北琉球の代表的な2方言の調査を通して、琉球語に関する言語学的な知識をバランスよく習得できるようになっています。

テキストについて

最終的に北側で話されている琉球語(奄美大島の湯湾方言)と南側で話されている琉球語(宮古島の西原方言)のそれぞれの文法の概要が理解できるようなテキストを準備します。

研修期間および研修時間について

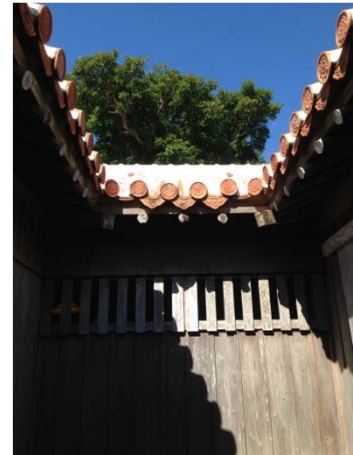
2016年8月16日(火)～2016年8月29日(月) 50時間
午前10時00分～午後5時00分(土日は休講)

文化講演について

実施予定. 詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします.
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2016>

受講料について

30,000円(教材費込み)



講師プロフィール ●:主任講師

●下地 理則 (しもじ みちのり)

九州大学大学院人文科学研究院准教授

2009年オーストラリア国立大学にてPhD (Linguistics) 取得
アジア・アフリカ言語文化研究所特任研究員,
群馬県立女子大学専任講師を経て, 2012年4月より現職.
主に南琉球方言(宮古方言, 与那国方言)について研究.



新永 悠人 (にいなが ゆうと)

成城大学等非常勤講師

2014年6月東京大学大学院人文社会系研究科にて博士(文学)を取得
2015年4月より現職.
主に北琉球方言(奄美大島方言, 沖縄久高島方言)について研究.



仲間 博之 (なかま ひろゆき)

加計学園参与・沖縄支局長

1947年生まれ. 宮古島市平良西原出身. 琉球大学物理学科卒業.
首里高校をはじめ, 県内各所で教諭として勤務. 宮古高校校長で定年退職.

宮古池間方言の継承に向けて, 県内外の大学・博物館などで講演を行うなど, 精力的に活動している.

直 三男也 (すなお みおや)

1953年生まれ. 奄美大島宇検村湯湾出身. 明治学院大学英文科卒業.
2013年に宇検村の社会福祉法人「滝の園」を定年退職.

湯湾集落八月踊り保存会の事務局を担当し, 湯湾集落の伝統文化の保存と継承に尽力している.



ゾンカ語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

ブータンには20近く(数え方によってはそれ以上)の独立した言語が話されています。これらの言語は、ネパール語(ホツァムカ)がインド・アーリア語派である以外は全てチベット・ビルマ語派に属します。

ゾンカ語は、17世紀以来ブータン西部で話されてきたンガロン(「西の人」の意)方言を母体として形成され、ブータン王国の公用語であり標準語として政府が使用を奨励している言語です。元来は、ブータン王国の西部の言語であり、現在ではブータン王国に20あるゾンカックのうち、ティンプー県、プナカ県、パロ県、ワンデュ・ポダン県、ガサ県、ハ県、ダガナ県、チュカ県の8県で話されている言語です。現在では同国のリングア・フランカ(共通の母語を持たない人同士の意思疎通に使われている言語)として用いられています。

ゾンカ語の言語系統は、シナ・チベット語族のチベット・ビルマ語派、チベット・ヒマラヤ語群に属する言語で、チベット語の南部方言に分類されると考えられています。最も系統関係が近い言語は、かつて存在したシッキム王国の国語であるシッキム語(デンジョンゲ)であると考えられています。

この研修では、ゾンカ語の文字と発音・基本文法・基本的会話を学びつつ、文化的背景にも適宜触れつつ講義を進めていく予定です。

研修の対象者について

初心者。チベット系諸語の未修者を想定している。

研修内容について

具体的な必要性を満たすために、日常よく使われる表現と基本的な語句を理解し、使うことができる。自分自身や他の人を紹介することができ、個人に関する詳細なこと(例:住んでいる場所、知り合い、持ち物など)について質問や応答ができる。相手がゆっくりはっきりと話し、いつでも手助けをしてくれるならば、簡単なやり取りができる。

最も直接的な分野(例:個人または家族に関する基本情報、買い物、地元の地理、仕事)に関わる文や頻繁に使われる表現を理解できる。身近で日常的な事柄についての簡単で直接的な情報交換を必要とするような、単純で決まりきったタスクにおいて意思疎通ができる。自分の経歴、身近な環境、直接必要のある分野の事柄について、簡単な表現で記述できる。

テキストについて

担当講師作成のテキストを使用する。

研修期間および研修時間について

2016年8月16日(火)～2016年9月5日(月) 90時間
午前10時00分～午後5時40分(土日は休講)

文化講演について

実施予定。詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2016>



受講料について

54,000円(教材費込み)

講師プロフィール ●:主任講師

●西田 文信 (にしだ ふみのぶ)

岩手大学人文社会科学部 准教授

香港城市大学大学院博士課程単位取得満期退学

秋田大学国際交流センター准教授などを経て、2013年4月より現職。ブータンのゾンカ語発展委員会、スイス・ベルン大学の言語学研究所の各研究員も務める。

主にシナ・チベット語族の諸言語について研究。



Tshering Dendup (ツェリン デンドゥップ)

横浜国立大学大学院博士前期課程 大学院生

2011年4月にインドのPSNA College of Engineering and

Technology卒業後、2011年5月よりティンパー市技官として

勤務。2015年4月より横浜国立大学大学院博士前期課程に在籍。

主に国際的なインフラ整備について研究。



ヒンディー語

》 初学者向け 》 大阪会場 》 日本語での授業

ヒンディー語はインド共和国の主要公用語で、広く北インドの共通語として使用されています。そのインド国内の話者数は、母語話者数約2億5千800万人、さらに北インド中心に分布する方言話者まで入れると4億人強(2001年インド国勢調査統計)です。昨今では人の移動も激しくなり、国内にとどまらず世界各地でヒンディー語が聞こえるようになりました。わが国では従来インドといえばインド哲学、サンスクリット学などの古典文献研究のイメージが強いですが、昨今現代インド研究や経済面での日系企業のインドへの進出もあり、現地の人々と意思疎通を図る手段としてヒンディー語の重要性が増しています。

ヒンディー語はインド・ヨーロッパ語族のインド・イラン語派の末裔で、英語をはじめヨーロッパの多くのことばと遠縁です。そのため、基本語順こそ日本語に似ていますが、動詞の変化や名詞の性と数に応じた変化のような異なる点、日本語とよく似ているが実は全く同じではない点も見られます。また、言語学的にはヒンディー語はパキスタンの国語でもあるウルドゥー語と「双生語」。この二つは口語レベルでは通じます。ただ、ヒンディー語で使用する文字はデーバナーガリー文字で、語彙も土着の語彙とともに古典語サンスクリット系の借用語、アラビア・ペルシャ系の借用語を豊富にもちますが、格式ばった文語的なヒンディー語では、サンスクリットの借用語を多く使用します。このように、ことばを使う場面に応じて使用する語彙が異なるため覚える単語も多いですが、覚えた分だけ深みのあることばであることを実感できます。

研修の対象者について

1. ヒンディー語未習者

(例:職業上これからヒンディー語を必要とする方、インド社会・文化に興味があり、理解を深めるためにヒンディー語を必要とする方、など)

2. ヒンディー語既習者

(例:現地で実践的にヒンディー語を習ったが、改めて文語にも触れインドに関する知識を広げたい、過去にヒンディー語を少し習ったが忘れてしまったため、もう一度初めから学び直したい、など過去に初級レベルのヒンディー語に触れたことのある方)

研修内容について

- 単文や簡単な複文を使って、身の回りのことを伝えることができるようになる。(書く)
- 短めの読み物を読んで概要を理解することができる。また、辞書を使いながら長い文章を読み、内容を把握できるようになる。(読む)
- 単文や簡単な複文を使って、日常会話レベルで意思疎通に困らない程度の自己表現ができるようになる。(話す)
- 日常会話程度の会話文や簡単な説明文を聞いて、内容を把握することができる。(聞く)

テキストについて

デーバナーガリー文字練習帳、ヒンディー語文型練習帳(初級編)、ヒンディー語読解(初級編)、ヒンディー語会話(初級編)、ヒンディー語文法解説書(初級・初中級用)

研修期間および研修時間について

2016年8月17日(水)～2016年9月13日(火) 100時間
午前10時00分～午後4時30分(土日は休講)

文化講演について

実施予定. 詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします.

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2016>

受講料について

60,000円(教材費込み)

その他注意事項

本語学研修ではヒンディー語未習者を対象にしていますので, 発音練習ならびにデーバナーガリー文字の習得からはじめます.

授業ではヒンディー語・日本語の辞書を使用します.

研修前に購入もしくは辞書アプリをダウンロードしてください.



講師プロフィール ●:主任講師

●西岡 美樹 (にしおか みき)

大阪大学大学院言語文化研究科 専任講師

2001年 大阪外国語大学にて 博士(言語・文化学)取得
2007年4月大阪外国語大学専任講師に就任, 2012年4月より現職.

研究分野: 言語学, ヒンディー語学, ヒンディー語と日本語の対照研究



Rajesh Kumar (ラジェーシュ कुमार)

インド工科大学マドラス校人文社会学研究科 准教授

2003年 アメリカ, イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校にて PhDを取得.

テキサス大学では講師, インド工科大学カンプール校, パटना校では助教を経験した後, 2012年に同大学マドラス校に助教として就任, 2014年7月より現職.

研究分野: 言語理論, 社会言語学, 英語, ヒンディー語の言語教育

